

# CIA は世界を混乱させるために悪漢や過激派を使う

## ——元心理作戦専門の将校

<https://sputnikglobe.com/20230516/cia-backs-monsters-and-radicals-to-sow-global-chaos--former-psy-ops-officer-1110399369.html>

Sputnik International

May 17, 2023



アメリカは、ワシントンにひれ伏すことを拒否する外国政府に対して、軍事クーデタや「カラー革命を」を後押しし、それがうまく行かないと侵略するという、長い歴史を持っている。対テロリズムの専門家 Scott Bennett は、なぜ、その代理戦闘軍の道徳が問題にならないのかを説明している。

米軍は、世界で行われている、CIA による不安定化やクーデタ作戦のための、傭兵やテロリストを養成していると、ある元米軍心理作戦専門家は言っている。

月曜日、新しく公表された米国防総省の文書について、ある大手新聞が報道し、ペンタゴンは、その代理軍隊の養成プログラムに選んだ新兵を、これまで人権侵害を犯したかどうかで、選別をしていないことを明らかにした。

米議会は 2018 年に、新兵を募集し、武装させて、「対テロリズム」や対反乱軍を養成するのに、1 億 1,500 ドルの予算を承認したが、残虐行為に関与したことがあるか否かを調べる、従来慣行を廃止した。

関連情報：「**国連は、ウクライナ軍の、ロシア兵捕虜への拷問について〈信頼できる情報〉を持っている**」

<https://sputnikglobe.com/20220510/un-has-credible-information-on-ukrainian-troops-torture-of-russian-pows-1095406731.html>

米特殊部隊は、この2国の紛争より前に、ロシアに対して使うためのゲリラ戦術を、ウクライナ兵に訓練していた。ビデオによる証拠がそれ以来 現われ、ウクライナ軍の、ロシア兵捕虜と市民への拷問と虐殺の様子が明らかになった。

元米軍心理作戦専門家スコット・ベネットは、スプートニクに対し、ワシントンが代理戦闘団を使って、これらの国家を不安定化させていることについては、何も変わっていないと話した。

「そういったことを手配する特殊作戦隊は、多様な兵器や戦闘技術、流暢な外国語に長けており、さまざまな地形、政治的風景、社会的・経済的な環境や政治的システムについて有能なのだ」とベネットは言った。「彼らはしばしば、心理作戦、カラー革命、政治的クーデタ、サイバー作戦、その他の、通常でない戦争形態の訓練を受けている。」

この元専門家兵士の説明によると、彼らの主要なミッションの一つは、他国の地方軍団の「人物確認、新兵募集、訓練、配置、バックアップ」であり、「その国の政府を不安定化させるために、社会・政治・経済を分裂させること」だという。

こうした暗黒作戦はしばしばCIAによって計画され、それらの国々の米大使館によって実行される。そのミッションが、いかに血生臭く、犯罪的で、憲法に反するものであろうと、それは関係がない、とベネットは強調した。

「情報の自由」の要求によって解禁されたペンタゴン文書の詳細は、「完全に辻褄の合う」もので、軍とCIAの規準に合致していて、その目的、戦略、その「不規則-非対称戦争」戦術、「熱のない戦争」「心理戦争-情報作戦」それに「ゲリラ戦術」は同じものだ、と彼は言った。

「特殊部隊が、ワシントンに雇われ武装した反乱軍や傭兵団や同盟軍などに対する、訓練に使われるのは、悪名高い話だ。それはカラー革命や、市民戦争（内乱）、その他、暴力によって政府を変えたり、転覆させようとする反乱に使われる」と、ベネットは強調し、「その狙いは、彼らを、米合衆国のおとなしく、従順な、従僕植民地にすることで、

そこで使われるのは民主主義、人権、自由、といった耳あたりのよい、政治的な誤導のスローガンなのだ」と言った。

関連情報：「米特殊作戦部隊によって訓練される代理戦闘団は、戦争犯罪の訓練を受けていない」<https://sputnikglobe.com/20230515/proxy-force-militants-trained-by-us-special-ops-troops-not-vetted-for-war-crimes-1110371532.html>



軍のインサイダーによると、アメリカは、狂暴な犯罪者を傭兵に用いることに、何の良心の呵責も感じないという。彼らがそういう者たちを、イラク、アフガニスタン、ソマリアなどで使った目的は「恐怖と暴力と不安定のファイアストームを創り出すことで、これは心理作戦の一形態として、民衆を強制し、アメリカ傀儡政権すなわち独裁者に降伏させること」だという。そしてシリア、リビア、ウクライナは、その最も新しい例である。

米軍の兵員たちは、ネオナチの「アゾフ軍団」メンバーさえ訓練したという、中国の Global Times 報道に依って、ベネットは、CIA も米国防総省も、「倫理的な吟味や道徳フィルター」を、彼らが新しく採用した代理戦闘員には、適用していないと言った。

それは「よく理解できるとか、期待されること、というだけの話ではない。実はそれは全く意図的なもので、そのように仕組まれているのだ」と、と彼は加えた。

「CIA は意図的に、最も野蛮で、ソシオパスで、血に飢えた、強姦者、殺人者、拷問者、悪魔的な犯罪者、麻薬常用者、子どもキラーたちを傭兵として使い、さまざまなアメリカの通常でない戦争作戦と政府革命において、用いているのだ」と、ベネットは非難した。「この社会の自分以外の人々に対し、苦痛と、苦しみと、トラウマと、悪を、平気で実行することができるのは、この社会の最悪の者たちだけだ。アメリカは、世界中の政府をひっくり返すのに必要な、混乱を創り出そうとしている——そして、これらの国々の資産を強奪しようとしているのだ。」

それが最も顕著なのはウクライナであり、「これまでにこれほど洗脳が進んで、ウクライナのある人々がこれほど完全に、人種的、宗教的、民族的なロボットミート催眠術を施され、これほどロシア人に対する頑迷と偏見に狂わされたことはない。」

### [訳者 Greatchain 注]

これを、前稿の「ドネツク市民はウクライナによる砲撃の恐怖…」と、更に望むなら「米刑務所はテロリストの訓練施設」<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/230428.pdf>なども併せ読んでいただくなら、更に理解は深まると思われる。このあたりの記事は、「人間の非人間化」というテーマですべて繋がっている。

ここには恐ろしいことが書かれている。人間として最低の、良心も道徳も持たない悪魔的な人間を、わざわざ選んで、傭兵として用い戦わせる、アメリカという国家がある。もちろん彼らは自分自身では手を汚さず、この者たちとは完全な主従（あるいは人間と家畜）の関係で一線を画すのだから、彼らは尊敬すべき紳士に見えるかもしれない。しかし誰一人としてそう考える者はいないだろう。彼らも全く同類の**悪魔的人間**である。アメリカ—少なくとも現政権のアメリカ—は、ひどい思い違いをしていて、それに気づいていないように見える。彼らは、自分たちとは能力的にも道徳的にも、全くかけ離れた劣った人種を創り出せば、自分たちは奴隷の主人として、うまくやれると考えているようだ。なんとも不思議なことではないか？

彼らには「汚い」とか「卑劣」といった感覚が、全く欠けているとしか考えられない。彼らが平気でウソをつくということにも、それは現れている。善悪の感覚も彼らにはない。しかし優越感だけはもっている。困ったことに、多くの日本人は、彼らに倣って彼らと付き合いをすれば、万事うまく行くと考えている。それしか処世の方法はないと考えている。実に不思議なことである。

それはそう見えるだけなのかもしれない。しかし少なくとも現在の雰囲気は、日本人がすべて、アメリカに調子を合わせなければ、生きていけないかのようである。誰が考えても、そのような「生き方」をする者が栄えることはありえない。そのような生き方をすれば必ず滅びる。それは断言できる。もし我々がそのような生涯の「道連れ」を選んではしまったのだとしたら、回復には時間がかかると考えねばならない。